

Q 漢方薬って ホントに効くの？



「科学的な解析で、 その有効性が 認められています」

西洋医薬品にはない
独自の効果。

皆さんは、漢方が日本の伝統医学であること、ご存じですか？ 遠い昔、中国の伝統医学が日本に伝わり、独自に発展を遂げました。それが漢方医学。その薬物療法に使われるのが漢方薬で、いくつもの生薬を配合した煎じ薬です。今では、臨床医の9割以上が、漢方薬を処方した経験をもつと言われています。実際、厚生労働省が承認する漢方処方方は現在294処方。いろいろな漢方薬が臨床現場で使われているのです。たとえば、「大建中湯」という漢方薬は、古くからお腹の動きが悪い時に処方されてきました。ところが、最近消化器外科における術後消化管癒着の防止や消化管機能を早く取り戻す目的で使われるようになり、その作用はアメリカでも注目されるほどに。漢方薬は、西洋医薬品のように一つの化合物ではなく、混合物のまま使われる医薬品。医薬品としては洗練されていないとも言える漢方薬が、西洋医学で治せない症状や疾患に効くなんて、不思議ですよね。

「なぜ効くのか」を
問い続けて。

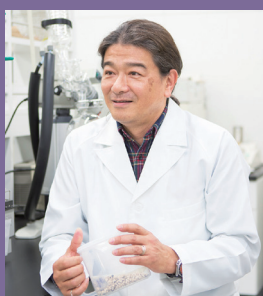
漢方薬の何が、どのように作用して効果を示すのか。その秘密を解き明かすのが、私の研究テーマです。そのためには、実験を重ねて基礎データを集める地道な作業が必要です。副作用などのリスクについても追究し、現代医学で漢方薬が正しく使われることに貢献したいと思っています。その過程で、伝統的な用法とは異なる作用や、未だ治療薬、予防薬のない疾患に効く処方を見出すことも。漢方薬研究は、私たちの恩師の時代が草創期で、私たち第二、第三世代がその後を追っています。まだまだ残っているたくさんの謎の解明は、皆さんの肩にもかかっているのですよ。



PROFILE

能勢 充彦 先生

漢方薬の香りが漂い、たくさんの生薬が保管されている研究室で「動物由来の生薬には、こんなものもありますよ」と、セミの抜け殻を見せてくれた能勢先生。人と違う研究がやりたいとの思いで、薬学のそれも漢方薬の道を選んだそうです。



私の学生時代

学生時代の実験室は、
生活感たっぷり。

漢方薬の成分について研究を始めた大学時代、研究室でかき氷を食べる私。今では考えられませんが、当時は実験台の側にデスクがあり、そこで飲食することも。実験と生活との線引きがゆるい時代とも言えますが、危機管理はしていました。

